

月報 2023年 5月31日 No.388

石城山岳会

5月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

4月例会山行 「佐倉山」「ロープワーク練習」

扇ノ山 (1310メートル)

しずがたけ

「賤ヶ岳」 (429.9m)

4月例会山行 「佐倉山」「ロープワーク練習」

2023年4月22(土) 23日(日)

秋葉、栗崎(透)(容)、小谷野、種市、星(昭)(奈)、山中、松本

4/22(土)

当初、窓明山→三岩岳→会津駒ヶ岳雪上テント泊縦走の予定でしたが強風により中止。

尾瀬ひのえまたかわばたキャンプ場近くの傾斜を利用したロープワーク練習に予定変更となりました。

危険なトラバースを想定して補助ロープを張る練習、同行者を確保して登下降させる為のシステム作りを1/2、1/3、1/5のパターンで練習しました。最後は懸垂下降を行い午前午後と充実したロープワーク研修でした。

ただまだ一人でスムーズにシステムを構築するレベルには程遠く、忘れぬようロープワークを日々練習する必要があると感じました。

夜はご厚意で開けて頂いたバンガローにてお鍋を囲んで飲み会。

楽しくてお酒が進みました。



4/23(日)

翌日は風の心配はあったものの気持ち良い晴れ。

うつくしま100名山・会津100名山の一座である佐倉山へ登ってきました。国道352号線沿い井桁側の登山口から入山。(ヤマザキショップ南会津舘岩店の横通り)

始めは落ち葉で埋もれた急な登山道をトラバースしながら登ります。しばらく進むと尾根道に。

地図で見たところ山頂までの標高差が300mほどだったので尾根に出れば楽に歩けるかと思ったのですが予想を裏切るアップダウンが続きます。細尾根歩き、岩登りが多く緊張する箇所が多々ありました。急な場所にはトラロープが付いているのですが所々傷んでいたため使用する際は注意が必要です。



登山道脇には淡いピンク色のイワウチワが咲いていました。可愛いお花に励まされながら岩場を頑張って登ります。

山頂手前の急斜面は落ち葉が多く、手掛かりも少なかったので補助ロープを出して頂きました。落ち葉で踏ん張りが効かなかった為このロープはとても助かりました。

そしてピークを4回ほど超え（何度も次こそ山頂だと期待しました笑）やっと佐倉山山頂に到着！

山頂はそれほど広さはなかったのですが展望良しです。北東方面に七ヶ岳、南東方向に荒海山、立木の間からは雪を被った南会津の山々が見えてとても綺麗でした。

下山ルートは少し分かりづらく 895m峰へ向かう踏み跡と沢へ向かう踏み跡があり迷いやすいと感じました。この日は沢の方へ向かって下山しました。途中、秋葉さんに山ハッカを教えて頂きスツとする葉の香りを嗅いでリフレッシュ♪

途中から踏み跡が明瞭でなくなりましたが沢に沿ってしばらく進むと車道に出ました。そこからのんびりと伊与戸川沿いを山菜やお花を愛でながら歩き国道 352 号へ。

スタート地点の登山口まで国道を歩く予定でしたが山中さんが車で迎えに来て下さり大変助かりました。帰り際、国道から佐倉山の凸凹の山容を見て急峻で岩場が多かった事に納得です。

佐倉山、登り甲斐のあるスリリングな山でした。

お昼は道の駅番屋にて美味しいお蕎麦を食べ、気持ちもお腹も満足な1日となりました。



【コースタイム】

登山口 7:57 → 佐倉山山頂 9:42 → 登山口 12:34

[休憩時間] 1時間 24分

[合計時間] 4時間 36分

(文責：松本)



国道から見た佐倉山



扇ノ山（1310メートル）

2023年4月27日 下山田安廣・玲子

日本300名山登山ガイド、NO262（大和溪谷社）鳥取県東部、兵庫県との県境に位置する。数年前、中国地方の300名山で登った氷ノ山に続き、扇ノ山を姫路側から登ろうとしたが、残雪が多く登山口まで行けず残っていた。



コブシ



豪雪の証



1100~残雪

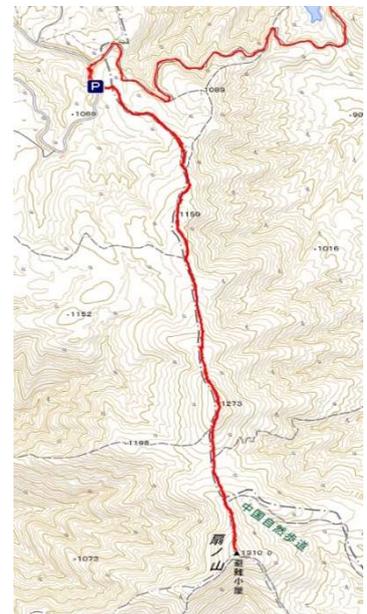


山頂



避難小屋

兵庫県の宿から河合谷放牧場経由で登山口となる水とのふれあい広場を目指す。ナビで行くと廃道に近い県道でバックもままならぬ。枝や落石・藪をよけ、何とか登山口に到着。昨日の雨で登山道（実は小沢）は水びたし、100mも上ると脇に登山道が出てきた。（笑）なだかな道を行くとコブシ、芽吹きの新緑とこれから芽吹きの新緑の境目。足元は残雪、足跡は消えていたのでとにかく上を目指し山頂へ。



<コースタイム>YH7:30→9:30 登山口→10:50 大ツッコ→11:33 山頂（避難小屋・北側はガラス張り）→11:59 山頂→13:19 登山口→13:30 みずとのふれあい広場→神山高原林道経由下山→14:30 国道9号

“下山後兵庫県「コウノトリ公園」に向かう。入園は無料、200m先にコウノトリの営巣で3羽のヒナを育てていた。”

<文責：下山田>

しずがたけ 「賤ヶ岳」 (429.9m)

2023.5. 2 (土) 下山田安廣・玲子

賤ヶ岳の合戦：1588年、歴史に残る羽柴（のち豊臣）秀吉が本能寺の変で織田信長の後継者を柴田勝家と後継者を争った、天下分け目の戦い。

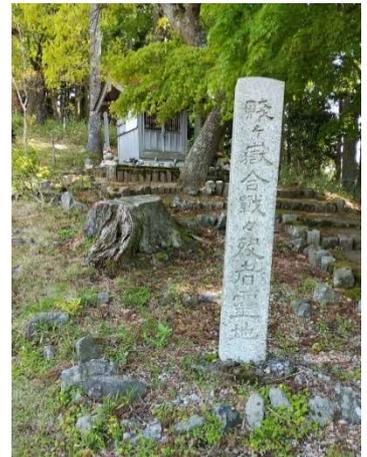


この戦いに敗れた柴田勝家とその妻お市（織田信長の妹）は自害をした。

登山口にはシャガが咲き乱れ、山頂にはボランティアの方が、山頂から見渡す山々を指さしながらこの時代の土地（各地の山城の配置）や当時の戦の様子などを説明してくれている。

雨のため琵琶湖の西岸にあるユースホテル「和瀨浜青年会館」で見た雑誌に古戦場「賤ヶ岳」が載っていた。登山口には春に稼働するリフトもあるリフトで6分、そこから10分で山頂。歩いて上ると50分。前者で上る。リフトを降り景色を楽しみながらゆっくり登る、天気は上々山頂には東屋、鎧、兜を身に着け疲れて座っている銅像が当時の兵どもの姿だ。

山頂ではボランティアの話を聞き、周りの山々の山城の後を見渡し、映画や大河ドラマを頭に描いた。



『コースタイム』 9:30 登山口（リフト乗り場）→9:37 リフト上部→10:05～10:32 山頂→10:40 リフト乗り場→10:46 登山口

<文責：下山田>